



稲荷第一小学校5年2組の皆さん。
給食をしっかり食べて、今日も元気！



「食べ始めの5分間は、モグモグタイム。一食にしっかり向き合う時間を取ることも効果があります」と話す杉山先生(右)



食べ残しゼロで 目指せペロリン賞!

子どもたちが毎日学校で食べる給食。その献立は、子どもたちの身体にとつて必要な栄養素がバランスよくとれるようにと工夫されたものです。多くの人が関わって作られる給食ですが、食べられずに残ってしまった分は、飼料にしたり、廃棄されたりすることになります。

「給食をたくさん食べてほしい」と話すのは、稲荷第一小学校の栄養教諭、杉山由佳先生。食べ残しを減らそうと、給食後に残っている量をクラスごとに確認し、一人前以下なら『ペロリン賞』として表彰する、という取組を始めました。毎日のようにペロリン賞を取っている5年2組は、この

残さず 食べたよ!

あと一口食べてみようー。
一人一人が心がければ、全体で何人分もの食べ残しを減らすことができます。



みんなの「あと一口」

ペロリン賞を含め、さまざまな食育の取組を続けることで、稲荷第一小学校全体の食べ残しの量は減ってきています。子どもたちの間では、「これは苦手なんだ」と言いながらも「おいしいから一口食べてみようよ」「今日もペロリン賞取ろうよ」と周りの声に励まされて、最後まで食べ切る姿が見られるようになりました。

杉山先生は「無理やりではなく、子どもたち自身が意欲的に取組むことが、結果につながっているのだと思います」と、子どもたちを見守ります。

会食や宴会などの席で残るたくさん料理。「もったいない」と思ったことはありませんか。

大人も、食べ残しゼロ。
さんまるいちまる **30・10運動を始めよう。**
乾杯後の30分間と終了前の10分間は料理を食べることを中心に楽しもう



食べ残しについて考えよう (石川中学校)

食品ロスについて、毎日の給食の食べ残しを「おにぎり何個分になるだろう」「処理に必要なお金で車が買える」など、身近な例に置き換えながら考えた1年生の皆さん。実際の量に驚いたと言います。

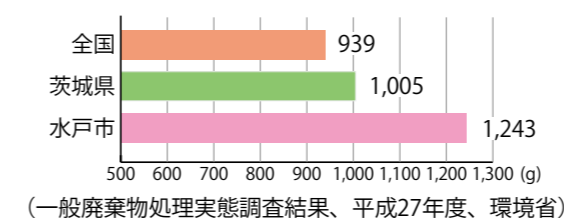
授業をとおして、「好き嫌なく食べる」「作ってくれる人たちに感謝する」など、食の大切さを改めて感じていました。



「もったいない」を、大切に。

日々の習慣や小さな気づきが、ごみの減量につながります。
皆さんも一緒に考えてみませんか。
問合せ/ごみ対策課(☎232-9114)

図1 一人1日当たりのごみの排出量(平成27年度)



水戸市のごみの量

市民一人1日当たりのごみ排出量は、全国の平均と比べて多くなっています(図1)。市全体では年間約10万6000t、処理にかかる総費用は約33億円に上ります。

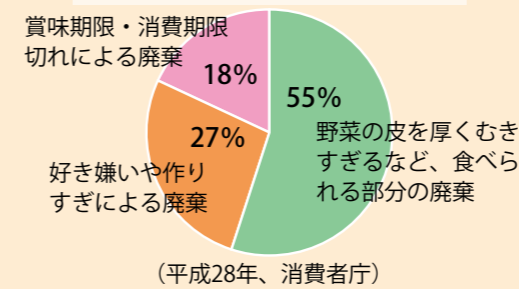
なぜごみの減量が必要なの?

私たちが「ごみ」として出す物のほとんどは、元は製品や商品だったものです。その原料や材料の多くが、石油や木材などの天然資源。ごみを減らすことは、限りあるさまざまな資源を大切にすることになります。また、ごみを焼却する際に排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの抑制や、市のごみ処理にかかる費用を抑えることにつながるなど、ごみの減量は私たちの生活に深く関係しています。

「ちりも積もれば山となる」

ごみを減らすためには、ごみとして出す物を減らすことが一つのポイント。物を大切に、無駄にしない、再利用できるものは分別して資源物として出す。一人一人の小さな取組も、みんなが続けていけば大きな力になります。

図2 家庭における食品ロスの内訳



もったいない! 食品ロス

本来食べることができず、捨てられてしまっている「食品ロス」の量は、国内で年間約600万tになります。このうち、半分にあたる約300万tが、家庭から出ているのです。食品ロス全体の量から試算すると、一人につき毎日約136g(茶碗約1杯分のごはんに相当する量)を無駄にしていることとなります。(平成26年度推計、農林水産省調べ)

- ✓ **食品ロスを減らすコツ**
- ✓ 計画的に買い物しよう!
- ✓ 買い物に行く前に、冷蔵庫の中などを確認し、買い物メモを持参。
- ✓ 食材を使い切ろう!
- ✓ 食材などのストックは適度な量にして、賞味期限・消費期限をこまめに確認。野菜などの皮を厚くむきすぎない。
- ✓ **食事は残さず食べよう!**
- ✓ 無理なく食べられる量を作り、おいしく食べ切る。
- ✓ **きずなボックスの活用**
- ✓ 各家庭で眠っている賞味期限内の缶詰やレトルト食品などを受入れていただきます。
- ✓ 場所/市福祉ボランティア会館(ミオス2階)、南部老人福祉センター「ふれしあ(吉沢町) ほか
- ✓ ※詳細は、お問合せください。
- ✓ 問合せ/市社会福祉協議会(☎309・5001) または市福祉総務課(☎232・9169)

チャレンジ！ ごみダイエット術

「ちりも積もれば山となる」を合言葉に、家族で取組んでみましょう。

ごみ対策課では、ごみに関するさまざまな情報を掲載した「ごみマガ！」を発行しています。ごみマガは、市ホームページから見る事ができます。



「水戸市 ごみマガ！」で検索！

生ごみは水を切るう

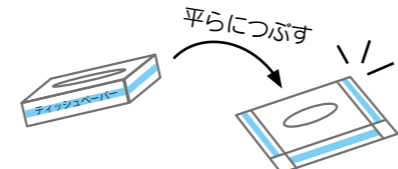
生ごみの約8割は水分です。水を切れば、1日当たり約40g、1年間続けると約15kgの減量に。生ごみの腐敗やにおいも防ぐことができます。

不要になったCDなどの穴に水切りネットを通すと、水分をしぼりやすい



分別すれば、資源になる

ティッシュの箱や菓子箱なども、分別すれば再利用できます。ごみ箱の横に資源物を入れる箱を用意すると便利。習慣づけることが大切です。



※取出し口のビニールは燃えるごみへ。

ごみのないきれいなまちを目指すポスターコンクールを実施しました

ごみの減量化や再資源化に取組み、不法投棄のないまちづくりに向けて、市内の小学生がポスターを制作しました。

▼入賞作品の展示
期間／11月28日(火)～12月8日(金)
場所／水戸芸術館エントランスホール



高学年の部
最優秀賞
田中雅桜さん
(吉田小学校5年)



まちをきれいにしたり、環境を守ったりするためには、一人一人の心がけが大切だということを伝えたいと思いました。



低学年の部
最優秀賞
川上由紗さん
(吉田小学校2年)

自然がごみでいっぱいになったらどうなってしまうだろう、と考えて描きました。きれいな景色を守っていきたいです。

ごみの出し方を守りましょう

家庭ごみ(燃えるごみ・燃えないごみ・資源物)は、指定ごみ収集袋を使う、決められた収集日・時間に出すなど、ルールを守って出しましょう。

また、商店、事務所、飲食店など業種を問わず、事業活動に伴って出るとのごみは、「事業系ごみ」となります。量や種類に関係なく、事業者の責任で、右表のとおり適正に処理してください。

※事業系ごみは、家庭ごみ用の指定ごみ収集袋を使って家庭ごみの集積所に出すことはできません。



市ごみ減量イメージキャラクター リサイクリン

<事業系ごみの取扱い>

事業系ごみの種類	処理方法	問合せ
一般廃棄物	産業廃棄物以外のもの(生ごみ、紙くず、せともなど)	水戸地区 小吹清掃工場(☎243-6811) 常澄地区 大洗、鉾田、水戸環境組合(☎267-2898) 内原地区 笠間・水戸環境組合(☎0296-77-2416)
	一般廃棄物収集運搬業許可業者に依頼	ごみ対策課(☎232-9144)
産業廃棄物	汚泥、廃油、廃プラスチック類などや、そのほか政令で定められているもの	水戸市産業廃棄物協同組合(☎259-7232) 茨城県産業廃棄物協会(☎301-7100)
資源物	ダンボールなどの紙類、びん・缶類など	各地区の清掃工場に直接搬入
	資源物回収業者に委託	水戸市再資源化事業協同組合(☎269-4165)

interview2 我が家の ごみの行方

自分が出すごみその後どうなっていくのを知ることが、ごみの減量を考えるきっかけになっています。

7月に市が行った「ごみたんけんツアー」に参加した佐藤真季乃さん(小学3年生)、真くん(小学1年生)、真陽くん(4歳)の姉弟。きっかけは、「子どもたちがごみ収集車に興味を持っていたこと」とお母さん。「家で無意識に出しているごみが、その後どうなるかを考える機会にもなるかな」と思って参加しました」と話します。



(左から)真陽くん、真季乃さん、真くん

ツアーの後半は、資源の再利用について学びながら、紙すきではがきづくりを体験。真季乃さんは「家で出すごみは少しだ」と思っていたけど、みんなの家から集まるとすごい量。ごみを出すときは、分別やリサイクルのこともきちんと考えようと思えます」と話していました。

ごみたんけんツアー 7月28日

市のごみ処理施設などを見学して、ごみの量や処理の過程などを知り、家庭でのごみの分別やリサイクルへの関心を深めました。

小吹清掃工場



市のごみの状況や工場の仕組みについて学びます



工場内を見学。「うちのごみはどこにあるかな〜」

水戸リサイクル館



さまざまな資源を再利用した展示品



牛乳パックからはがきを作る体験も



クイズを楽しみながら、分別などを改めて確認

集積所での分別収集を実施します

下入野町地区において、新清掃工場の建設工事が始まっています。

平成32年4月の供用開始に伴い、ペットボトル、白色トレイ、プラスチック製容器包装の集積所での分別収集を新たに開始します。ご協力をよろしくお願いいたします。

詳細については、今後、「広報みと」などでお知らせします。



完成イメージ図

ペットボトルおっかけツアー 8月1日

かすみがうら市や神栖市の工場などで、ペットボトルのリサイクル過程を見学。ペットボトルの正しい出し方などについて学びました。



(左)ペットボトルを固めた「ペール」がいくつも積みあがる倉庫
(右)リサイクルの仕組みなどを学ぶ



家電リサイクルツアー 7月26日

栃木県宇都宮市や栃木市の工場などで、生活の中で身近なテレビやエアコン、洗濯機、冷蔵庫など家電製品のリサイクル制度について理解を深めました。また、ごみ処理場の見学も行いました。

(左)大型クレーンがごみを攪拌するごみピット
(右)冷蔵庫の解体ライン

